

大甕小学校通信

令和2年4月23日(木) 文責：校長 佐藤 伸洋

大甕小学校「校章」



大甕 と 三枚の柏の葉

学校・家庭・地域の「連携・協働」で進む

新型コロナウイルス感染拡大防止対策や学校再開・臨時休校(継続)、ご家庭のご理解とご協力、誠にありがとうございます。

全国規模の緊急事態宣言、そして福島県知事からの臨時休校要請等を受けた南相馬市の臨時休校(継続)は5月6日(水)までとなっております。状況の変化によっては、対応について再度ご連絡する場合も考えられますので、どうぞご了承ください。

新型コロナウイルス感染拡大(防止)の局面を乗り越えるためには、ご家族の皆様のご協力が重要になってきます。学校でも全力を尽くしてまいります。ご家庭でのお子さんの「健康管理」「基本的生活習慣や学習習慣の確立」へのお力添えをよろしくお願いいたします。

「校章」に込められた思い・願い

<学校沿革誌「校旗樹立式」

(昭和45年3月23日)より>

●今の雲雀ヶ原は太平洋戦争が始まった頃に飛行場となり、終戦後はそれが畑や水田に変わってきた。さらに近年は急速に住宅や工場などが立ち並んできたので、昔の面影は全くなくなってきたが、以前は野馬追祭場地を残して全面雑木林続きで、その雑木林に混じって柏の木がたくさん自生していた。柏の木はこの地域にたくさん自生していた樹木である。●柏の木の葉は柏餅には欠かせないものであるが、昔の人には葉守りの神が鎮座していると信じられていたと伝えられている。●本校の校章は、三枚の柏の葉で「大甕」を包んでいる形を図案化したものである。その意味するところは、三枚の葉はそれぞれ葉守りの神の如く子どもたちの健全な成長を願いながら、協力して子どもたちを見守っている「学校」「家庭」「地域社会」を表している。そして、中心の「大甕」はこれら三者に温かく抱きかかえられ、見守られて心身共にすくすく成長・発展している大甕小学校の児童を意味したものである。

■【**甕(みか・かめ)**】大甕地区に延喜式内社に比定される日祭神社があります。この神社の由来は、日本武尊東征の際、平定を祈願してこの地に天照大御神を勧請したといい、大甕という地名は、祈願の際に祭壇にささげられた酒をもった器にちなんだと言われています。大甕は、神と人の住む境界として「大甕」が埋められていたか、あるいは「大甕」を以て祭祀が行われた地であったと考えられています。<日立市歴史点描より>

■学校・家庭・地域が連携・協働して子どもたちの育ちを温かく見守り支援する姿、あるいは、健全に大きく育った心身(甕)に蓄積された財産(バランスのよい知・徳・体)を活かして、新たな情報化社会の様々な場面に力強く対応していく子どもたちの姿など、思い描くことができるのではないのでしょうか。

大甕小学校「校章」に込められた思いや願いを大切にしながら、「学校経営・運営ビジョン」(裏面に掲載)をもとに、教育活動を進めてまいります。

21日(火)の連絡メールでお知らせしたとおり、4月27日(月)に連絡物や配付物の受け取り時間を設定いたしました。配付する「学年・学級だより」には、家庭学習や生活の仕方等について記載しております。お子さんと一緒に内容と実践の仕方の確認をお願いいたします。

4月中には、計画したとおりの指導を十分に行うための時間確保ができませんでしたが、学校が再開してから指導を重ねてまいります。通常登校中や臨時休校中であっても“子どもたちのために今できること”を“最大限に行う”これを学校・家庭の共通目標として実践を協働していくことが、子どもたちの健やかな成長につながっていくものと強く信じています。